

東北の音楽界を支えて

— 交響楽部関係資料 —

東北大学交響楽部（オーケストラ部）の前身は、1921年（大正10）創設の東北帝国大学音楽部にさかのぼります。同部に置かれた声楽部と器楽部が、1958年（昭和33）に交響楽団と三つの合唱団（男声・女声・混声）に分離しました。

交響楽部は学生オーケストラとして国内有数の歴史を持ち、現在に至るまで、東北大学学友会の文化部に所属して活動を続けています。戦時中は、東北帝国大学報国会および大政翼賛会文化協会に編入されるなど戦時統制の影響を受け、1943年（昭和18）11月以降3年間は演奏会中止、仙台空襲（1945年7月10日）では楽器類を焼失するなど、苦難の歴史もありました。戦後の活動再開後は、1949年（昭和24）のベートーヴェン・第9番交響曲の東北初演、1959年（昭和34）のブラームス・第1番交響曲の仙台初演を実現するなど、大学内にとどまらず、東北地方の音楽界の発展のためにも重要な役割を果たしてきました。定期演奏会は今年の7月で、166回に達します。

今回公開に至った計701点の史料は、『東北大学交響楽団史（1921～1988）』の編集責任者であった志田俊郎氏（1961年理学部卒）の旧蔵です。編纂事業の中で収集された演奏会のプログラムやチラシなどに加え、同窓会活動に関わる書簡類などの史料、写真や音声記録などが含まれ、大学からの文化発信の伝統を今に伝えています。



1941年6月定期演奏会（於東北帝国大学講堂）